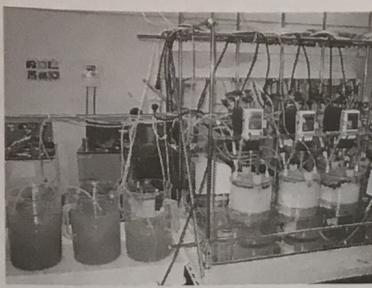


研究開発の最前線



カリウム回収バイオリアクター（高橋氏）

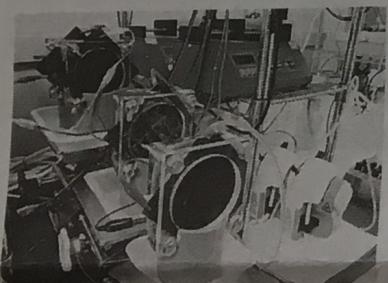


藻体を培養した真岡下水処理場内の試験装置（山村氏）

「下水道発」技術の普及展開へ



実験視察の様子（右が飯田氏）



実験装置である微生物燃料電池リアクター（廣岡氏）

国土交通省が平成26年度から実施している下水道技術研究開発（GAI Aプロジェクト）は、地域ごとに異なる下水道の政策課題の解決を目的として、下水道分野の技術研究開発の未来を担う若手研究者との連携等により、大学等の研究機関が有する先端的な技術の活用や実用化を促進し、成果の普及を図っています。

平成26年度には7件、27年度7件、28年度6件の合計20件の技術が採択され、研究開発が進められてきました。GAI Aプロジェクトの履行

期間は3年間。26年度に採択された7技術は今年度で終了するが、同7技術は今後もGAI Aプロジェクト発の技術として展

道の技術研究開発の未来を担う若手研究者との連携等により、大学等の研究機関が有する先端的な技術の活用や実用化を促進し、成果の普及を図っています。これら7技術の成果と今後の展開をそれぞれの研究代表者に聞いた。

▽「好塙古細菌を用いたカリウム資源回収の実用化に関する技術開発」（北海道大学・高橋正宏教授）

約3年間の研究により実用化に向けた検討が明らかになってきた。「今後1年程度でス



下水汚泥と地域副産物で栽培したきのこ（山内氏）



調査を行ったコンポストセンター（藤原氏）

期間は3年間。26年度に採択された7技術は今年度で終了するが、同7技術は今後もGAI Aプロジェクト発の技術として展

道の技術研究開発の未来を担う若手研究者との連携等により、大学等の研究機関が有する先端的な技術の活用や実用化を促進し、成果の普及を図っています。これら7技術の成果と今後の展開をそれぞれの研究代表者に聞いた。

▽「下水を利用して培養した微細藻類による漁業飼料生産技術の開発」（中央大学・山村寛准教授）

2月より明電舎の協力を得て飯能市に実験プラントを移動しさらなる検討を進めている。今後はナマコ以外の魚介類への給餌にも挑戦したい。

▽「下水汚泥を用いた高付加価値のこの生産技術及びその生産過程で発生する廃培地・炭酸ガスの高度利用技術の開発」（鹿児島工業高等専門学校・山内正仁教授）

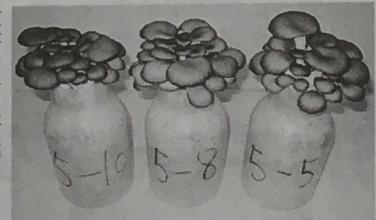
約3年間で基本的なデータを揃えることができた。同校は霧島市と連携協定を結んでおり、「今後は霧島市とともに地域の農業従事者も巻き込んで実

施して下水道技術研究開発（GAI Aプロジェクト）は、地域ごとに異なる下水道の政策課題の解決を目的として、下水道分野の技術研究開発の未来を担う若手研究者との連携等により、大学等の研究機関が有する先端的な技術の活用や実用化を促進し、成果の普及を図っています。これら7技術の成果と今後の展開をそれぞれの研究代表者に聞いた。



実証試験で栽培した飼料用米の収穫（渡部氏）

GAI A



下水汚泥と地域副産物で栽培したきのこ（山内氏）



調査を行ったコンポストセンター（藤原氏）

▽「微生物燃料電池による省エネルギー還元微生物複合体を用いたバイオマス電力生産技術の下水処理施設への適用検討」（日本工営・飯田和輝次長）

同技術が下水処理場で使用可能であることが検証できた。今後も継続して研究を行い、スケールアップを目指したい。

▽「微生物燃料電池による省エネルギー還元微生物複合体を用いたバイオマス電力生産技術の下水処理施設への適用検討」（日本工営・飯田和輝次長）

同技術が下水処理場で使用可能であることが検証できた。今後も継続して研究を行い、スケールアップを目指したい。